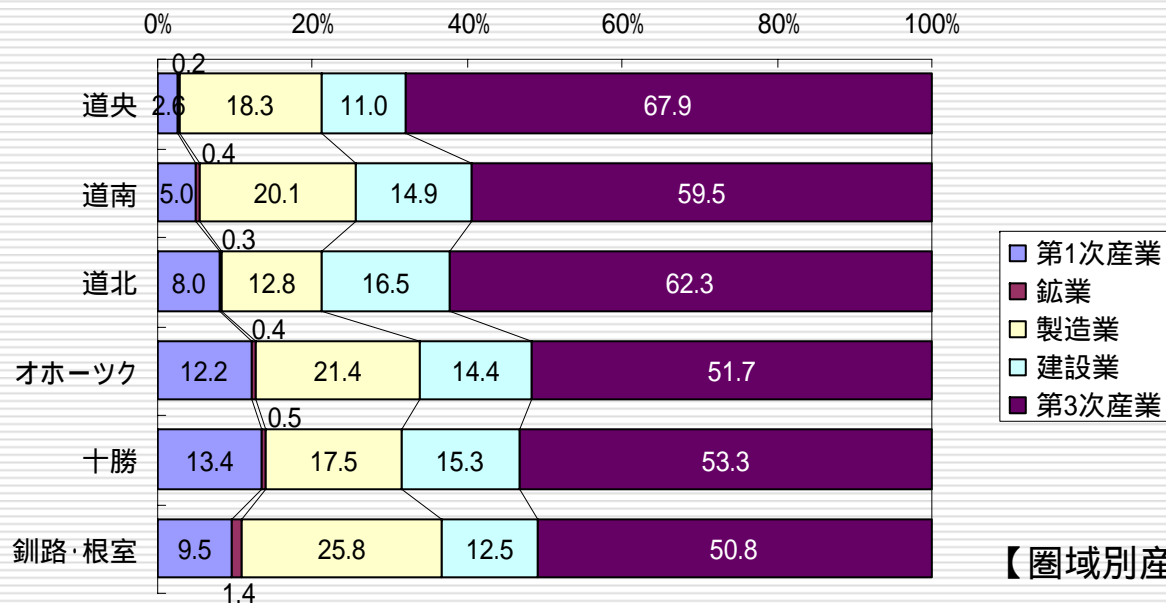


地域経済

産業構造

「釧路・根室」では、全道他地域に比べ製造業や鉱業の割合が高く、第3次産業の割合が低い。また、第1次産業の割合も全道平均（5.4%）を上回っている。このことを産業別特化係数（次頁）からみると、漁業、水産食料品製造業などが非常に高いことがわかり、特徴的である。



【圏域別産業構造（1998年）】

特化係数とは、地域別産業別生産額の割合を、対応する道内生産額の産業別の割合で除して求めた係数である。

「1」であれば、地域における当該産業の生産額の割合が、道内全体における割合と同じであることを示す。

地域経済

産業別特化係数

産業別特化係数をみると、漁業、水産食料品のほか、鉱業、と畜・肉・酪農品、パルプ・紙などが産業としては盛んであり、道内他地域と比べても特徴的であるといえる。

【圏域別産業別特化係数
(1998年)】

	道央	道南	道北	オホーツク	十勝	釧路・根室
農 業	0.54	0.64	1.44	2.23	2.90	1.38
林 業	0.37	0.66	1.94	2.78	2.87	1.40
漁 業	0.25	2.50	1.58	2.27	0.33	3.77
鉱 業	0.61	1.09	0.87	1.01	1.43	3.75
製造業	0.99	1.09	0.69	1.16	0.95	1.40
うち と畜・肉・酪農品	0.46	0.91	0.47	1.98	3.24	3.11
水産食料品	0.31	2.71	1.14	2.63	0.18	3.67
その他の食料品	0.92	1.36	0.55	1.43	1.92	0.68
繊維	1.11	1.18	1.38	0.22	0.60	0.38
製材・家具	0.72	0.86	1.80	2.05	1.09	1.04
パルプ・紙	1.09	0.08	0.79	0.06	0.21	3.22
出版・印刷	1.27	0.59	0.99	0.36	0.42	0.53
化学製品	1.01	0.95	0.23	0.63	0.94	2.65
石油・石炭製品	1.69	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03
窯業・土石製品	0.82	2.45	1.18	0.86	0.97	0.73
鉄鋼業	1.68	0.13	0.03	0.04	0.03	0.02
非鉄金属一次製品	1.51	0.85	0.19	0.00	0.32	0.00
金属製品	1.36	0.52	0.65	0.35	0.45	0.41
機械	1.13	1.36	0.52	1.62	0.48	0.27
そのほか	1.34	0.52	0.64	0.43	0.42	0.55
建設業	0.87	1.18	1.31	1.14	1.21	0.99
電力・ガス・水道	1.21	1.28	0.62	0.49	0.56	0.51
商業	1.10	0.88	0.91	0.77	0.89	0.83
金融・保険・不動産	1.16	0.84	0.85	0.80	0.61	0.68
運輸・通信・放送	1.02	1.01	1.05	0.92	0.79	1.03
公 務	0.97	0.86	1.32	0.97	1.10	0.79
サービス業	1.05	0.97	1.03	0.82	0.90	0.81
分類不明	0.99	0.98	1.02	0.98	1.03	1.02

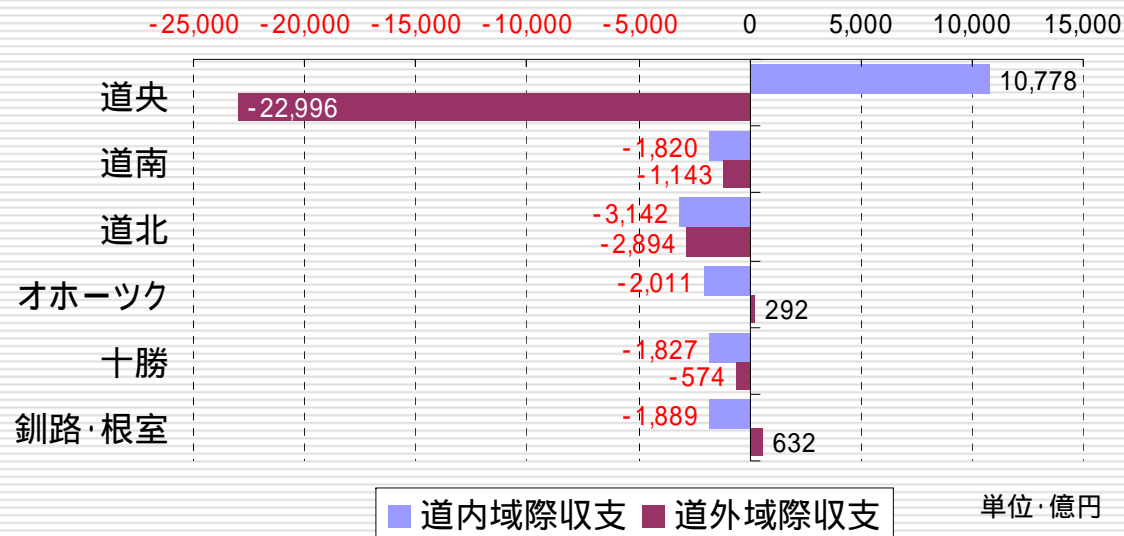
特化係数とは、地域別産業別生産額の割合を、対応する道内生産額の産業別の割合で除して求めた係数である。

「1」であれば、地域における当該産業の生産額の割合が、道内全体における割合と同じであることを示す。

地域経済

域際収支

道内域際収支は、第3次産業や石油・石炭製品、鉄鋼製品などで道央に集中（前頁参照）などしているため1,889億円の赤字だが、紙・パルプ（釧路港からの年間移出198万t）や生乳などの畜産品（同107万t）、石炭（同91万t）のほか漁業、水産食料品などが道外域際収支に寄与しており、632億円の黒字となっている。



【圏域別域際収支
(1998年)】

地域経済

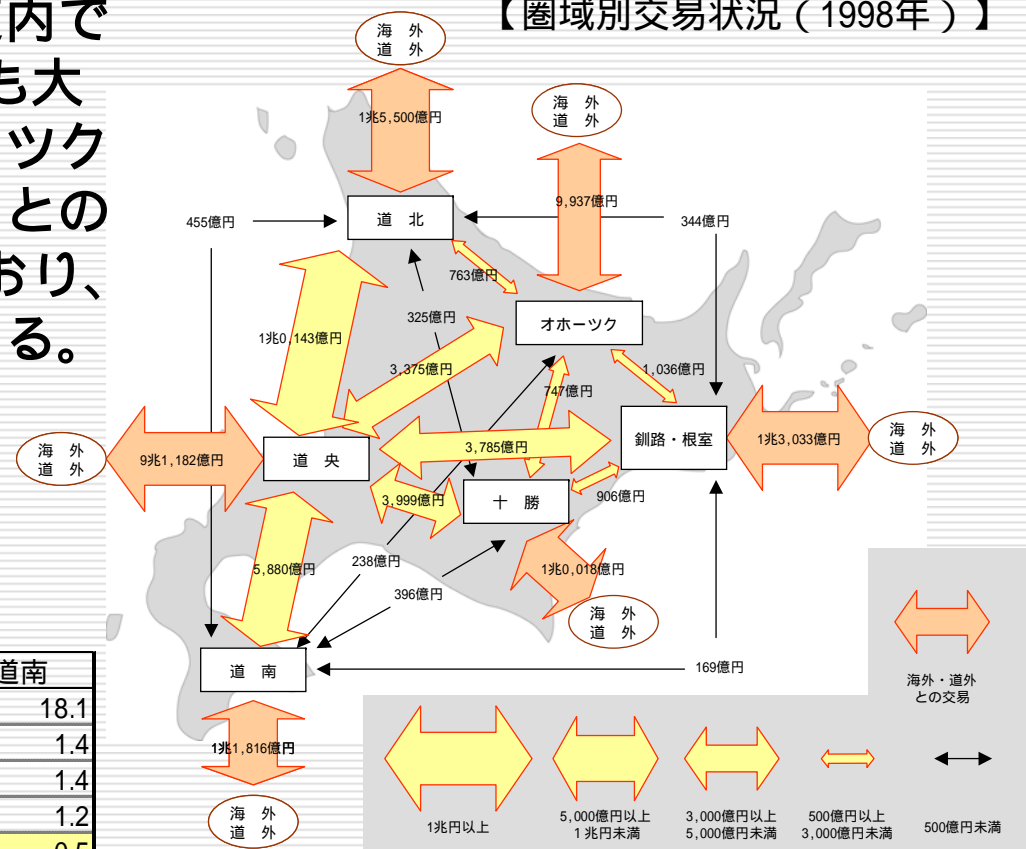
交易状況

釧根地域の交易状況を見ると、道内では道央との交易が3,785億円と最も大きいですが、他地域と比べるとオホーツクに次いで低い。一方、海外・道外との交易額は1兆3,033億円となっており、道央、道北に次ぐ規模となっている。これらから、交易状況としては、海外・道外との結びつきがやや強い状態にあることがわかる。

【各地域間の交易割合 (%・1998年)】					道南
		道北	道央		18.1
				道南	1.4
				オホーツク	1.4
				十勝	1.2
釧路・根室	2.8	3.2	1.1	11.6	0.5

交易の割合とは、道内各地域間の交易の全額に占める各地域管野交易金額の構成比のこと（合計が100%となる）。

【圏域別交易状況（1998年）】



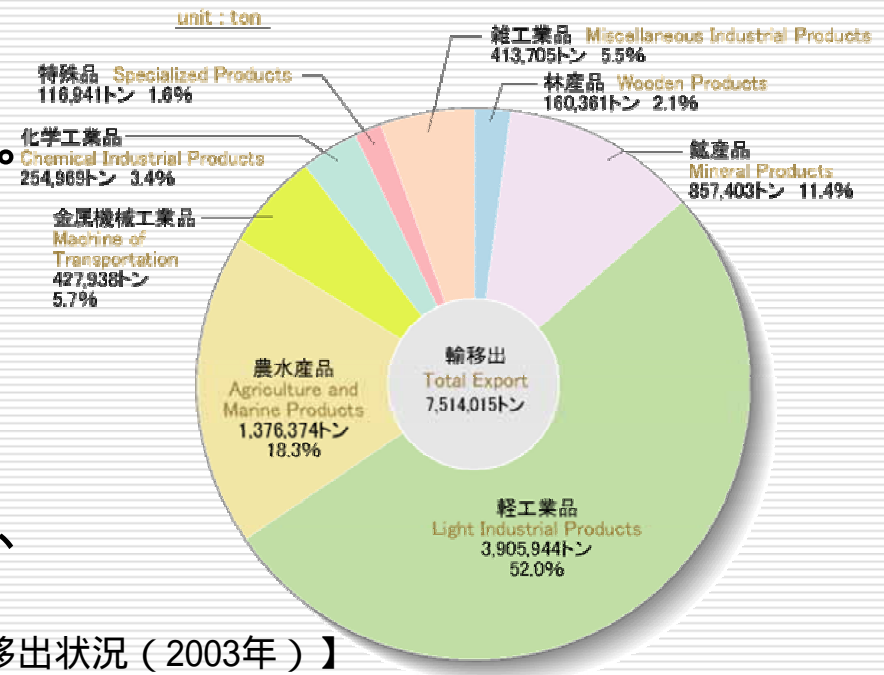
平成10年北海道内地域間産業連関表
国土交通省北海道開発局開発監理部開発計画課

地域経済

交易状況

海外・道外との取引状況について、釧路港の貨物取扱などからみると、輸出がおよそ10万t程度（2003年）で輸移出全体の1.4%程度となっている。金属クズや紙・パルプのほか、近年では好調な外貿コンテナ貨物を背景にスケトウダラなど水産品が増加している。なお、仕向国は韓国が55%、中国が24%などとなっている。また、移出はおよそ740万tで、このうち生乳などのその他畜産品が14%を占めている。

特に北海道本州間のRORO船航路（14航路）の半数が釧路港に寄港していることもあり、地域で生産される紙、生乳などがこれにより関東などの本州方面に輸送されている。【釧路港の輸移出状況（2003年）】



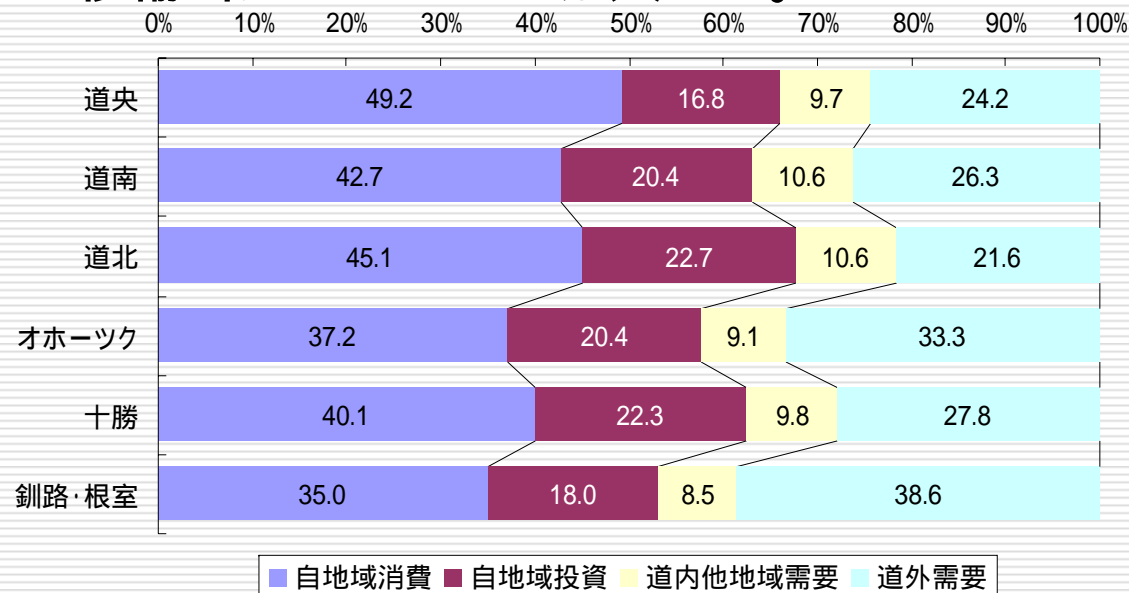
RORO船とは、ロールオン・ロールオフ船の略で、トレーラーシャーシや商品車を自走により積み卸しする荷役方式の船舶のこと。

地域経済

生産誘発構造

「自地域消費」および「道内他地域需要」による生産誘発額の割合が他地域に比べ最も低い。

一方、「道外需要」による割合は、38.6%と最も高く、その生産活動は道外の需要要因、とりわけ紙・パルプや畜産品（生乳）、水産食料品などの移輸出によるところが大きい。



【圏域別生産誘発構造
(1998年)】

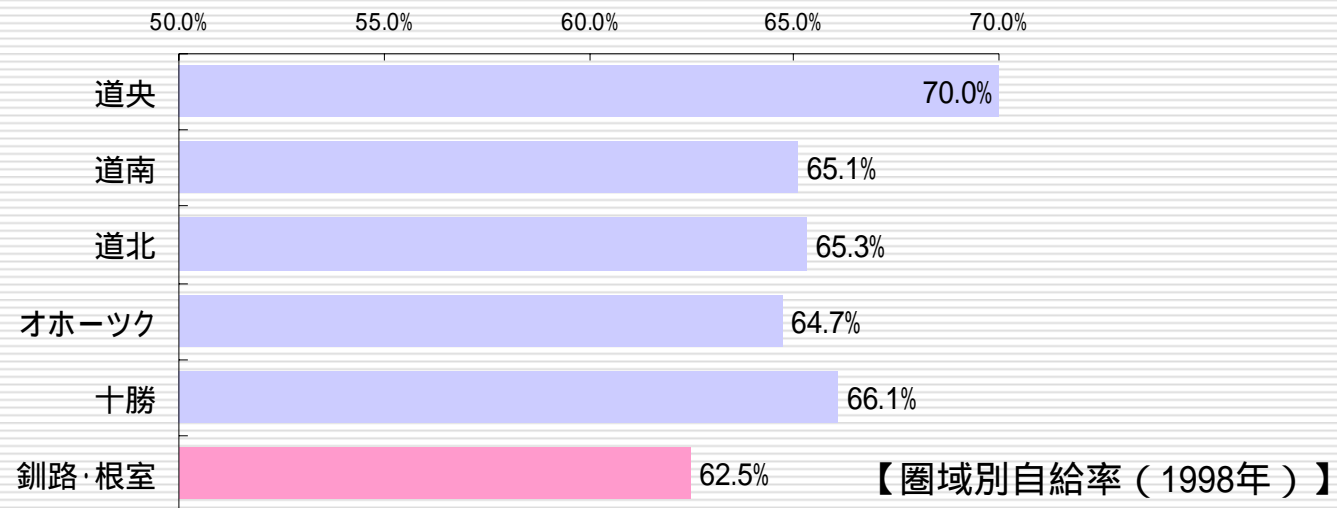
「自地域消費」とは当該地域における消費のことで、購入した財やサービスがどの地域で生産されたのかを問わない。
このため、次頁の「自給」とは異なる。

地域経済

圏域経済の特色

自給率についてみると、道内では「道央」が70.0%と最も高く、「釧路・根室」は62.5%と最も低く推計されている。

具体的に自給率が低い産品としては、水産食料品やと畜・肉・酪農品、パルプ・紙などが挙げられているが、これらは生産額も大きいことから、移輸出向けが中心となっている。

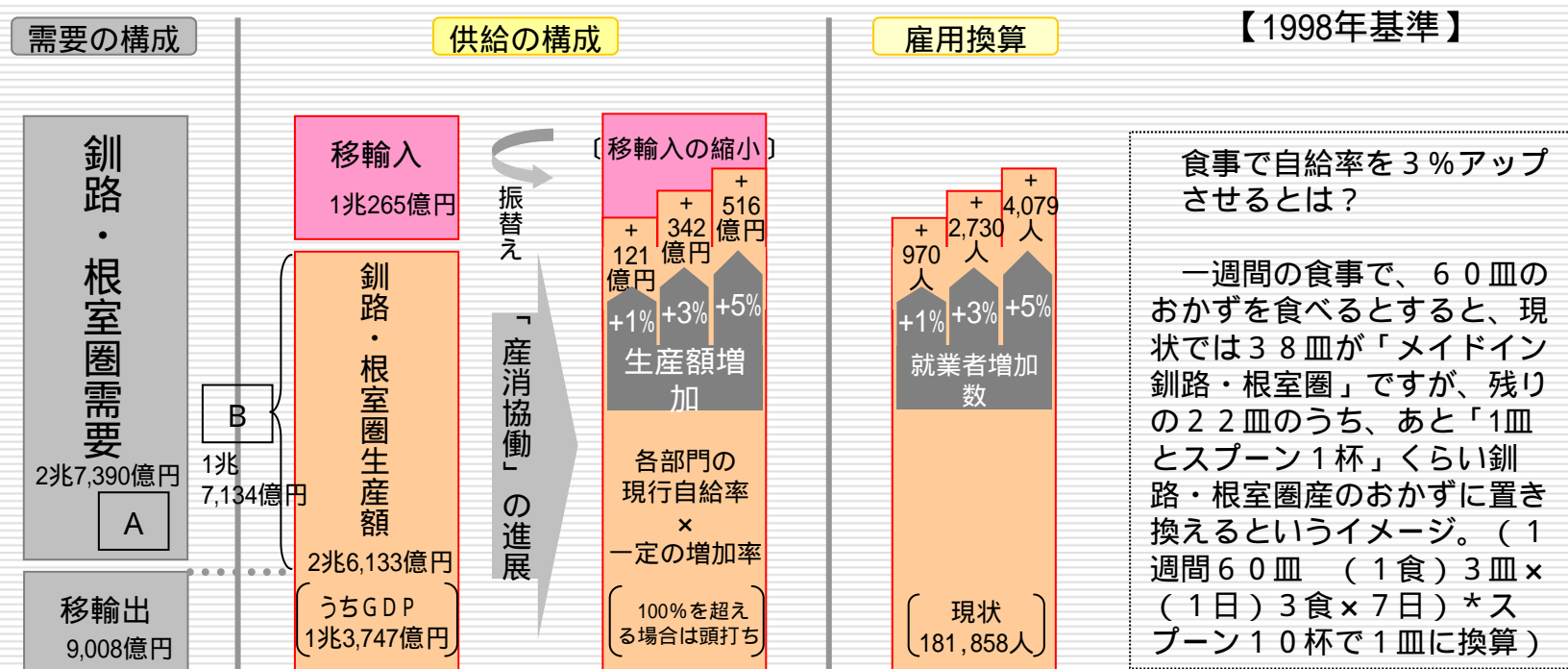


ここでの「自給率」とは、産業分類別に当該地域における原材料等の調達割合を推計し、それらを合算したもので、前頁の「自地域消費」とは異なる。

地域経済

圏域内自給率向上による経済波及効果

例えば圏域外からの移輸入が圏域内の生産に一定程度（１％、３％、５％）代替されると仮定した場合、その生産面と雇用面での経済波及効果は以下の通り推計されている。

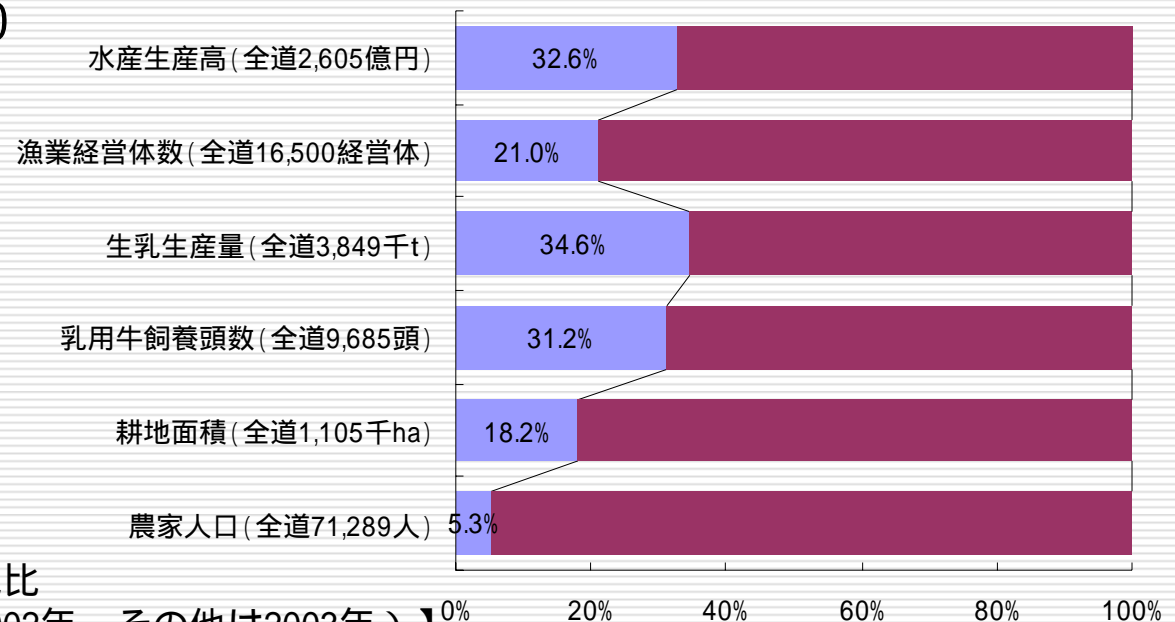


農業・水産業

農水産業の特徴

釧根地域の農業は、農家人口1人あたりの耕地面積が大きく、特に酪農などの大規模化が進んでいる。なお、生乳生産は1,331千t（2003年）で、全道比で34.6%、全国（8,380千t）比で15.8%となっている。

また、水産生産高も850億円（2002年）と大きく、全道比で32.6%、全国（16,680億円）比で5.1%となっており、これらが地域の第1次産業を特徴付けている。

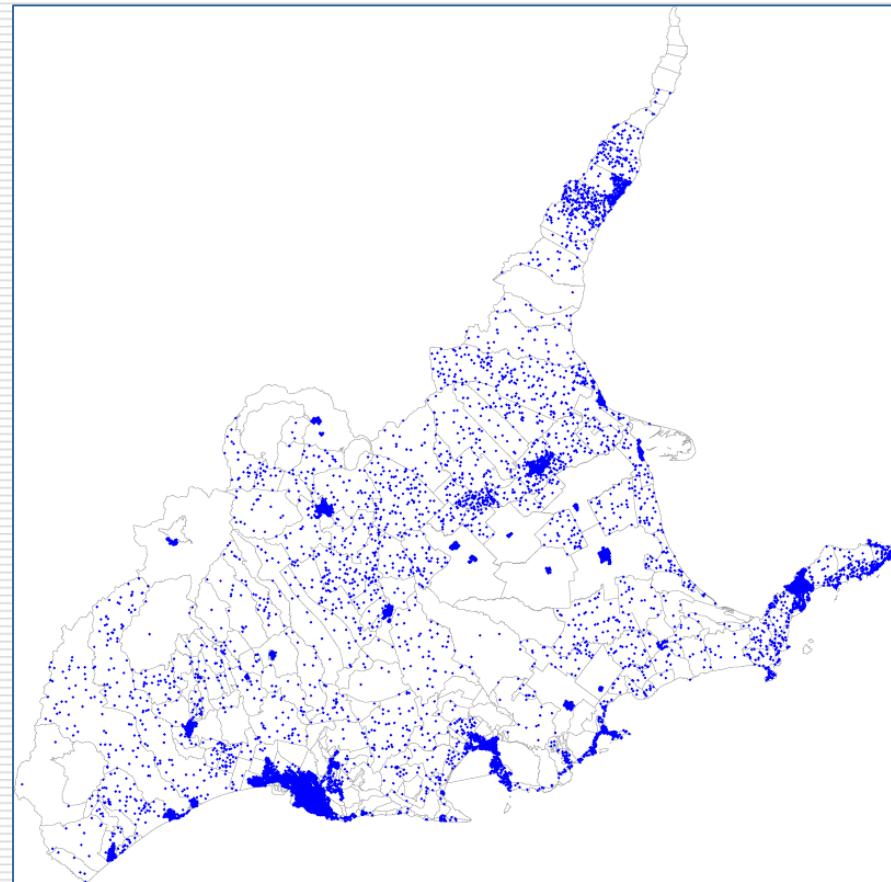


【釧根地域の農家人口などの全道構成比
（水産生産高および漁業経営体数は2002年、その他は2003年）】

農業・水産業

農水産業従業者分布状況(2000年)

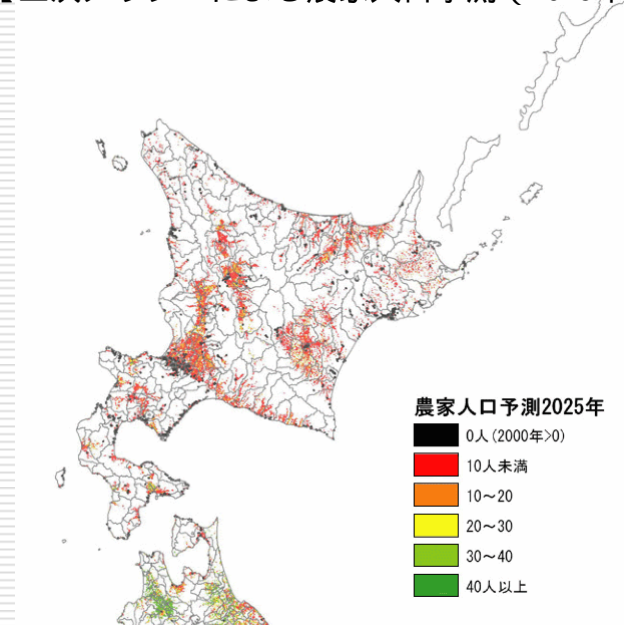
農水産業の従業者分布をみると、漁業は沿岸部に偏在しているが、農業は広く点在している。



釧根地域の農家人口は16,952人（2000年：全道比6.0%）となっており、地域には5戸未満の集落が分散的に存在している。

また、メッシュ（緯度・経度により細分化した方形の小地域区画のことで、ここでは500m四方で編集している）当たりの農家人口は本州などに比べても少ないが、将来的にはさらに少くなると予測されている。

【三次メッシュによる農家人口予測（2025年）】



各農業集落の2000年の農家人口と、その年齢分布をもとに、将来農家人口推計値をコーホート変化率法で求め、各メッシュに按分されている。

2000年時点での全国（82都市圏を含む）

の農業集落をもとに作成されている。

新しい国のかたち「二層の広域圏」を支える総合的な交通体系（平成17年5月）
二層の広域圏の形成に資する総合的な交通体系に関する検討委員会

農業・水産業

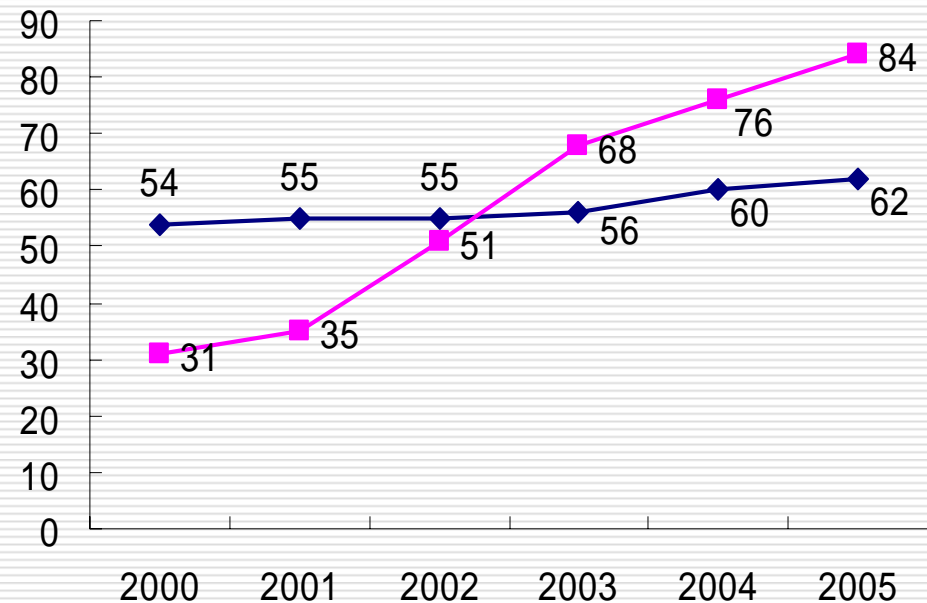
農業経営の効率化に向けた取り組み

農業生産法人数の推移

釧路・根室地域の農業生産法人数は2000年の85から大きく増加し、2005年には146を数え、増率では全国及び北海道の水準を大きく上回る。

なお、2003年のコントラクター数は、釧路支庁管内の7、根室支庁管内の26で計33となり、北海道の18.6%を占めているが、とりわけ根室は空知支庁管内の40に次いで多い。

【釧路・根室管内における農業生産法人数の推移】



乳用牛

37経営体13,614頭
1経営体あたり368頭

管内飼養頭数30.7万頭の4.4%
管内平均は1戸あたり110頭

肉用牛

30経営体31,435頭
1経営体あたり1,048頭

管内飼養頭数55.3万頭の5.9%
管内平均は1戸あたり160頭

◆ 釧路 ■ 根室

農業生産法人数、同飼養頭数は北海道調べ
管内飼養戸数・飼養頭数は北海道農林水産統計年報
(平成16年～17年：北海道農林統計協会協議会)

農業・水産業

漁業の効率化に向けた取り組み

漁港の屋根付き岸壁による就労環境の改善

防雨、防雪機能等を備えた屋根付き岸壁の整備は、就労環境の改善と同時に、水産物の品質、衛生管理の向上にも資する。現在は羅臼漁港と標津漁港において、その整備が進んでいる。

この2漁港がある羅臼町、標津町の漁業経営体数は455(平成15年、以下同じ)で、釧路・根室地域の13.1%を占めている。他地域と同様に従業者の高齢化や担い手の減少などが課題となっているが、効率化などが進んでおり、漁獲金額が173.4億円と同地域の23.3%となるなど、経営体当たりの漁獲金額は高い。



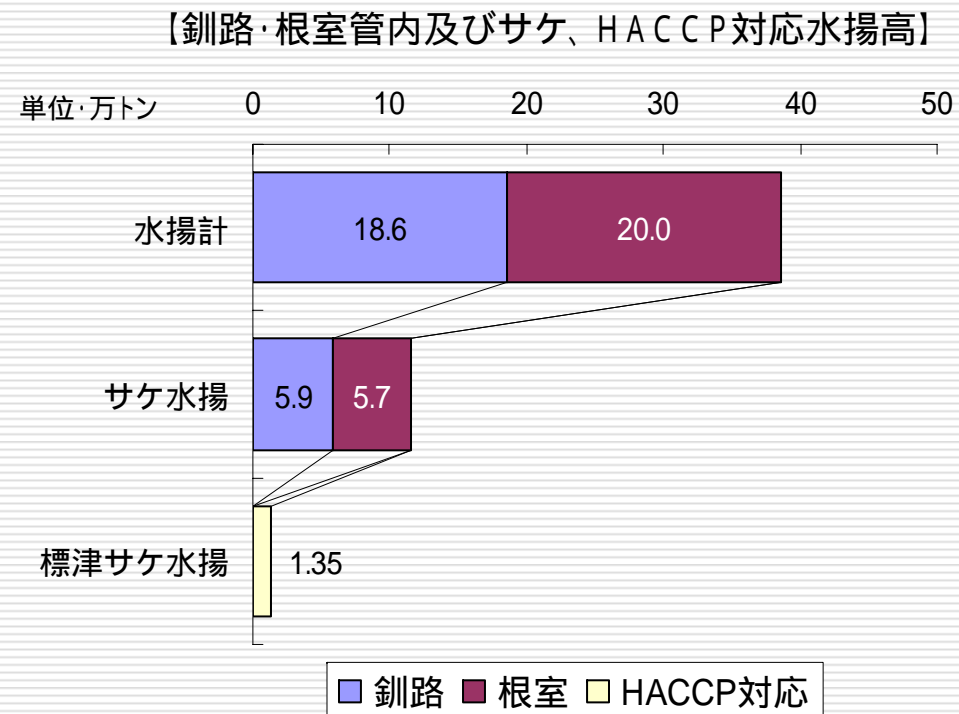
農業・水産業

安全・安心な食に向けての取り組み

HACCP対応の水産物の割合

食の安全・安心に向けた取り組みとしては、HACCP対応などが挙げられるが、釧路・根室地域の水産物に関する対応は標津漁港で水揚げされるサケがある。

なお、この水揚量は年間(2004年)13,500トンであるが、これは地域全体の水揚量(38.6万トン)の3.5%、地域のサケ水揚(11.7万トン)の11.5%となっている。



農業・水産業

資源循環型農業に向けた取り組み

資源循環型施設

釧路・根室地域における、家畜ふん尿などの資源循環型施設数は7施設となっている。
これら施設の利用頭数をみると、合計で2,670頭となっており、地域全体の29.7万頭のおよそ0.9%となっている。

【釧路・根室地域における資源循環型施設の状況】

名称	運転開始	発酵槽容量 立米	ガス発生量 立米 / 日	利用戸数 戸	利用頭数 頭	耕地面積 ヘクタール
仁成ファーム	2001		600	1	270	
開新牧場	2004	540	1,016	1	650	210
清和牧場	2004	470		1	430	263
藤田牧場	2003		480	1	110	
別海町酪農研修牧場	1999		8	1	40	
別海資源循環試験施設	2001	1,500	1,500	9	1,000	
J A 別海水沼牧場	2001	200	330	1	170	